

岩手県 グループホームはごろも

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

自 己 評 価 票

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時にスタッフ皆でブレインストーミング法により構築した理念『ありのままのあなたに寄り添います』を現在も継続し、利用者一人ひとりの思いに添った生活を目指している。	○	処遇等で迷いが出た際の拠り所として、理念を活用している。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	処遇等で迷いが出たときにはスタッフ皆で話し合い、理念に基づいた援助に心がけている。目につきやすい所へ理念を掲示し、スタッフ各自が意識できるようにしている。	○	理念の構築は今後もスタッフ全員で行い、共有できるようにする。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	重要事項説明書やパンフレットに理念を記している。玄関口に理念を掲示し、訪問者にも知って頂けるようにしている。母体施設の文化祭行事等にはパンフレットを設置し地域の方々に事業所を周知して頂けるように努めている。	○	今後も多くの方の目に触れる箇所へ理念を掲示したり、パンフレット等で浸透を図りたい。
○				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	通院や買い物の際に行き交う方との挨拶をしたり、「気軽に来てみて下さい」との声かけを行い、実際に来て頂いている。	○	普段から地域の方々との交流を大切にし、機会ある毎に事業所を知って頂くように声かけを行う。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや文化祭、学校行事に出向き、交流を図っている。	○	今後も地域の行事等に積極的に参加し、交流を深め、地域の方との馴染みの関係も構築していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の高齢者住宅で一人住まいしている方々を招待し、一緒にお茶を飲み楽しい一時を過ごしている。地元で1ヶ所しかない専門的な施設にて、地域への情報発信の場となるようにと考え、今年度より広報に『認知症介護の豆知識』として掲載している。	○	今後も交流機会をふやしていきたい。岩手宮城内陸地震のような被災時には、一人暮らしの高齢者に生活の場として開放を行い、緊急時の雨、風がしのげる安心できる場としての提供ができるよう緊急時の体制も検討しておきたい。
○				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質の向上を図りたく、自分達自身の業務を振り返る良い機会となっている。評価結果により自分達自身の反省と励みになっており、良い評価頂いた項目に関しては、日々の業務でも自信を持って対応できている。	○	自己評価、外部評価を受けることにより、1年に1回は自分達の業務を振り返る機会を設け、より良いサービス提供ができるように目指したい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での話し合いから、個人ボランティア登録制を開始し、スタッフだけでは限界のある各種行事の際に手伝いを頂いたり定期的な訪問により、利用者の方々の楽しみも増えている。会議出席の利用者の方からの意見を反映しての業務変更や行事企画に繋がっている内容もある。	○	今後も事業所の内容を知って頂きながら、会議での話し合いを有効に活用できるように取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の建物と母体施設が廊下づたいとなっている為、気軽に行き来できている。講演会等のお知らせを地域に流したい時に包括支援センターへ依頼している。保健活動や介護保険関係についても気軽に相談、話し合いを行っている。	○	今後も行政からの情報収集及び、行政との蜜な連携を図り、より良いサービス提供に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は1名の利用者が地域福祉権利擁護事業を利用されている。	○	今後も必要性ある方には、関係者と相談の上、活用していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習機会は設けていないが、利用者間の言葉の虐待等には注意をはらっている。	○	学習機会を設け、全スタッフが共通認識を持てるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居日と同時の契約締結を行っている為、受入で忙しい中での説明を行なっている状態にて、十分な説明にはなっていないと思われるが、ご家族の思いや、今後の方向性の話し合いは行っている。	○ 事前の契約締結に努め、じっくりと説明をした上で、ご家族も考える余裕を持つての入居手続きができるようにしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1対1になる入浴時に利用者の希望や不満を聴きだすようにしている。家族来所した際に「何か話してありませんでしたか?」と問いかけ、本人の訴えを家族から聴きだすようにしている。運営推進会議の場でも利用者から意見を頂き、対応に心がけている。	○ 本人の意見を訴えやすい環境づくりに配慮し、利用者が居心地良く生活できる場の提供に努めたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活の様子がわかるような広報を作成し、毎月の利用料請求書と一緒に郵送している。その時々々の生活場面や行事の様子の写真をホール内に掲示しており、面会時には家族にも見て頂くようにしている。通院時に主治医へ提供する情報書類(生活の様子)は同一の物を家族へも提供している。	○ 今後も同様に取り組みをしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族アンケートの実施により、その時々々の家族の意見、要望を確認するようにしている。	○ 家族アンケートは継続的に実施し、なかなか口にできない事までも汲み取れるような体制にしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議において、職員の意見や悩みのお話し合いを行い、業務に反映している。	○ 今後も全スタッフでの話し合いの場を設け、より良いサービス提供につなげていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態変化や外出行事等の際には、スタッフで話し合い、必要な時間帯のスポット勤務をしたり、延長勤務したりしている。スタッフだけで不十分の際にはボランティアの協力を頂く場合もある。	○ 利用者の状態変化に合わせ、スタッフの話し合い、了解のもとで、その都度の対応に努めたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動により不穏状態になった利用者があるが、(○○さ〜ん、と夜間かん高い声で呼び続ける)ハガキを書いて出し、それに対して異動した職員も返事を届けてくれたりして現在は落ち着いている。	○ 職員の異動は最小限に抑えたいが、異動があった際には、その都度対応していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講演会、資格所得に向けての情報を知らせ、希望者には参加できるように配慮している。スタッフ会議の場では困難ケースの話し合いや介護技術の学習等も行っている。	○	法人内外の研修を受けられる体制にしていきたいが、人的な問題により参加できないこともある。事例検討を行うことにより、育成につなげたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はグループホーム協会のブロック事務局となっており、定例会において同業者との情報交換や学習の企画運営を行い、相互のサービス向上を図っている。	○	今後も同業者との交流を深め、相互のサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ会議において、職員の不安な点の話し合う場を設け、不安軽減を図っている。研修参加により他事業所の職員との交流ができ、不満等を語り合える仲間作りをするよう努めている。	○	利用者と離れる休憩時間の確保が課題となっている現状である。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修や学習、資格所得に向けての試験日に合わせての勤務調整を行なっている。各種研修会等の情報も職員に提供している。研修終了後にはスタッフ自身が学習した内容を他者へ報告する場を設けたり指導者となる場面を設けたりしている。	○	今後もスタッフ同士の学習機会をつくる。資格取得や研修参加の勤務調整を図っていく。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所当初は「心配なことはありませんか?」「困っていることはありませんか?」の声がけを頻繁に行い、生活環境変化による本人の不安を早期に軽減できるように心がけている。入居1ヶ月間は本人の言動を記録できる様式を使用し、本人の思いを早期に把握できるように努めている。	○	入所当初の不安軽減に努め、1対1で対応する入浴介助中には、本人が話しやすい雰囲気留意し、傾聴に努める。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み時点で、家族が困っている点を傾聴するようにしている。	○	入居当初は本人の不安も大きい為、頻繁な面会を依頼すると同時に、スタッフと話す機会を設け、より多くの情報を早期に入手できるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護困難で申し込みに来られた家族へ、介護手続きの説明や各種サービスを紹介し在宅介護支援センターつなげた。申し込み時点で、環境が整っていれば在宅生活可能と思われる方に、常時管理人の居る高齢者支援ハウス(バリアフリー)を紹介、見学まで対応している。	○	グループホームの入所に限らず、相談を受けた場合には、本人、ご家族の不安軽減できるように、できる範囲で対応し他関係機関への橋渡しを行っていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込み時点や入居前に、本人の見学を依頼している。空き居室が出た際には、申し込みされている方々へ連絡をしショート利用をして頂き、本人と他入居者の相性なども確認させて頂いている。	○	今後も本人の見学や、お茶飲みに気軽に立ち寄って頂くようにし、本人、他入居者が馴染み易い雰囲気づくりに心がける。空き居室のショート利用は継続的に取り組んでいきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事等、皆それぞれ役割を持って手伝って頂きながら共同生活を送られている。すいとんやお供え餅づくり、沢庵漬け等では先輩である利用者の方々にスタッフが教えられ一緒に調理している。地域の催し物や花火見物に出かけたり、畑での収穫の際の感動を共に味わっている。	○	『できる力』を沢山持っている先輩の方々より教えられる場面作りに心がけスタッフ自身の成長と利用者の生きがいを感じられる取り組みに努めていきたい。【お互い様精神】
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	今年より敬老会にご家族も招待し一緒にお祝をして頂いた。本人からの要望や体調不良の際には、その都度連絡し家族の協力を得ながら対応を行っている。	○	外出行事や誕生日の際にもご家族に声掛けし1年に1回程度でも良いので、感動を共に一緒に味わう機会を設けたいと思う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠にならないように、季節ごとの衣類の入れ替えや必要物品の購入をご家族に依頼し、面会する機会に繋げている。スタッフは、本人の頼りどころとなる家族を把握し、対応している。本人が家族と直接電話できるように子機を使用したり、ハガキや手紙を書くことを勧め支援する時がある。便りが届くと返事を書いて下さるご家族も居る。	○	面会時には日常の様子を報告したり、アルバムにより生活状態を知って頂くように今後も努める。ご家族の意向を傾聴し、その都度の思いの変化に対応していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日の個別外出の際には、本人の行きつけだった店や馴染みの場所への外出対応を行っている。普段のドライブでも、それぞれの自宅周辺へ出掛けたり、知っている店での買い物をするように努めている。知人の面会の際には、再度気軽に来て頂けるような接遇に心がけている。	○	今後も関係性が途切れないよう、馴染みの人や場所を大切にしたい取り組みを継続していきたい。同時に新たな関係性の構築にも留意していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性の良い人との仲間づくりの支援をし、一緒に作業を(洗濯干し、畳み方、調理等)して頂く場の提供に心がけている。コタツやベンチで利用者同士が語り合っている時にはスタッフは入らないように距離を置いての見守りを行っている。横になっている利用者には、側に居た方がそっと毛布を掛けたりしている。	○	利用者同士で教えたり、教えられたりする場面も多くみられ、スタッフは入らずに本人達に任せ、見守りを続けていきたい。体調を崩した利用者に対して『お大事に』と声掛けしたり『大丈夫？』と覗き込む他利用者があり、今後も利用者同士の関係性を大切にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ボランティアとして継続的に訪問して頂いている。入院によるサービス終了されたご家族は、経過報告に立ち寄って下さったり、今後の相談に来所されている。収穫した野菜なども差し入れに持ってきて下さっている。	○	一期一会を大切にし、サービス終了後も気軽に立ち寄れる場としての雰囲気づくりに心がけていきたい。再び利用したいと思えるようなサービス提供に心がけ、信頼される事業所(職員)になれるように努めたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「今日は散髪に行きたい」という希望があった際には、後回しせずに行える範囲で対応している。訴えのできない方には、「そろそろ髪を染めに行った方が良いでしょうか？」等の問い掛けにより本人の返事を頂くようにしている。1対1での入浴中には個々の思いを聴くことが多い為、日誌やスタッフ会議で共有し合い対応している。	○	今後も個別に話す機会を意識しながら、本人の思いを汲み取れるように努めていきたい。訴えが上手くできない方には、普段の様子を把握しながら、スタッフとしての気づきのアンテナを高くし、対応に心がけたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自の調査表やセンター方式の様式により個々の生活歴を把握した上での対応に心がけている。居宅ケアマネージャーからの情報書によりサービス利用の経過も把握でき、本人の希望がある際には、サービスの継続的利用にも対応している。(同一法人のデイ利用)	○	1人ひとりの生活歴を知ることは生活支援する上で重要なことをスタッフ全員が認識しており、対応する際の【ヒント】に繋がる為、今後も取り組んでいきたい。デイサービス利用も、できる範囲で対応し在宅生活の継続性や地域との関係が途絶えないようにしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録や業務日誌、各種チェック表の記録により、全スタッフが状態把握できるようにしており、朝・夕の申し送りにより口頭でも1日の過ごし方等の報告を行い、現状の把握ができるように努めている。	○	日々状態変化のある方々にて、記録や申し送りにより、現在の状態把握ができるように努めていく。今までできていた事ができなくなった際には、早めに気づくようにし、その都度の対応を検討し、本人が不安にならないように心がけたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望やスタッフ会議においての話し合いの内容を盛り込んだ介護計画を作成するように努めている。制限等のある方には、主治医からの指示も記入し、家族、全スタッフが共通認識を持てるようにしている。	○	本人からの要望をよりの確に受けとめられるように努め、計画書に反映し、本人のより良い生活援助に繋げたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化生じた際はスタッフ会議開催し話し合いを行った上で、全スタッフの共通認識のもとに統一した処遇を行っているが、見直し後の計画書作成までは至っておらず。	○	家族に現状を理解して頂く為にも、変化生じた際の見直しの計画書は速やかに作成するように努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や各種チェック表、業務日誌への記録を行っている。日誌に確認欄を設け、全スタッフが情報を共有できるように工夫している。	○	各種記録の徹底により、情報の共有化を図り、利用者に対する統一したサービス提供ができるように努める。
○				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	在宅生活の関係性を絶たないように同一法人のデイサービス利用者だった方には、本人の希望によりデイ利用を継続している。遠方の家族が来所の際には、利用者と一緒に寝泊りし、一緒に食事をしたり家族団欒の場を提供している。今年よりショートステイの受入を開始している。	○	今後も同様の取り組みを継続し、窓口を広く持ち柔軟な対応に努めていきたい。ショート利用された家族からも大変喜ばれ、今後も取り組んでいきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	回想ボランティアや読み聞かせボランティアの訪問が定着しており、利用者の方々との馴染みの関係性が構築されている。保育所園児の散歩コースの立ち寄り場としても定着し、園児との交流機会も頻繁になっている。小学校の運動会や地域行事、催し物がある際には、希望される方々をできる範囲でお連れするようにしている。	○	今後も地域行事や催し物の情報収集に努め、楽しみある生活を提供すると共に、地域の方々と関係機関との協力体制も築いていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人希望があった場合、デイサービス利用の継続や、独居で帰宅願望のある方には居宅のケアマネジャーと連絡をとり地域のサービス事業を取り入れて対応していた。自宅付近にグループホームが開所になったことを家族へ情報提供し、他事業所への転居の際には、転居先へ訪問し情報提供を行っている。	○	今後も柔軟な対応に心がけ、各関係機関との連携を図りながら、できる範囲で本人、家族の意向に添った支援を行ってきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの交流は図られているが、協働での支援の必要性が出ておらず。	○	必要性があった場合には、協働での支援にとりくみたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期通院はスタッフが対応している。かかりつけ医との連携は図られており、体調不良時にも主治医に連絡を取り速やかな対応ができています。本人、ご家族も入所時に、医療との連携が良いから安心と話されている。	○	今後もスタッフが受診支援を行い、生活の様子や体調変化を主治医に報告し、適切な医療をうけられるように努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診必要な利用者の状況把握できるような情報提供書類を作成し、スムーズに対応して頂けるように努めている。服薬調整の期間中の生活の様子や変化等を詳細に情報提供し、適切な治療を受けられるように支援している。家族へも同一の情報提供書を渡している。	○	今後も同様の対応に心がけ、適切な治療をうけられるように支援したい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所内に看護師はいない為、体調変化時や傷の処置の際に併設の特養看護師に相談、協力頂く時がある。消毒に関しては常に助言、指導を頂いている。	○	今後も相談しながら、適切な対応に努めたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際には、生活の様子や本人の嗜好、性格的なこと等の情報提供を行っている。入院中には主治医や看護師、相談室と連絡を取り合い経過の把握に努め、退院後の方向性の話し合いも行っている。	○	今後も同様の対応に努めていきたい
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化して来た際には家族同伴での通院対応を行い、主治医と話し合いをする場を設けている。看取りに関してはスタッフの体制上、環境上、現時点ではできないことを家族に説明しており、スタッフも共通認識を持っている。	○	本人、家族の希望がある場合には、検討必要な課題である。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化し24時間大声で叫び通しの利用者を専門医に受診し適切な治療を開始し落ち着いた方がいた。狭い生活空間での他利用者の生活もあり、スタッフや事業所の限界を見極めた上での対応に心がけている。看取りに関しては、現状の自分達では十分な対応ができないことを共通認識している。	○	今後も主治医との連携を図り、利用者のその時々状態に合わせたチームケアの取り組みに努めたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には、本人の馴染みの物や見慣れた物等を持参して頂くようにし、環境変化による本人の不安軽減に留意している。家族やケア関係者より情報収集を行い、本人へのサービス提供がスムーズに繋がるように努めている。	○	環境変化によるストレスは大きいと思われる為、今後も同様に対応していく。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけることのないような言葉かけ 対応に配慮し 人生の先輩として接する心がに努めている。記録のとり方でも、言葉を選び また個人名もイニシャル記入、書類等は目に付かない場所に保管している。、知り得た情報は漏らさない指導を受け実行している*方言での会話になり、人によっては、慣れなれしく受け取られる心配はある。	○ 人生の先輩として 尊重し失礼のない処遇に努める。書類などは保管場所に配慮し 知りえた情報は必要以外漏らさないように努める。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○ ・日頃の対話の中での声かけ 行動にて、思いを汲み取り状況を説明など行い選択、決定をしていただいている。*十人十色 時には右倣いにしていただいたこともある。	○ その人らしい 思いや行動 希望かなうような生活支援に努める
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○ 食事の時間 散歩 畑の収穫 観たい番組 過ごす場所 美容院等々その都度ご本人の希望に添った楽しみある支援に努めている。*美容院などは時にこちらから促すこともある。	○ 対応が十分とは思えず個人対応の時間を少しでも多くとり未だ見えていない部分や思いなどに答えられる支援を行いたい。
○			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○ 本人の行きつけの美容院や馴染みの理容店へ出かけられるよう支援している。整髪や髭剃りの声かけをし、本人にも意識して頂くようにしている。(自力で不十分の方には介助にて)	○ 身だしなみやおしゃれ感覚を維持できるように、今後も支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	○ 炊事を好む方には毎食の調理に参加して頂き、他利用者にも盛り付け、配膳の手伝いを頂いている。食卓拭き、食器洗い、拭き方、棚へのしまい方・・・と個々のできる力を発揮して頂いている。利用者に季節の食材を提示し、献立を考えて頂いたり、その日のおやつ作りをしたり、楽しまれている。行事食を多く盛り込むようにしている。	○ どの方も食べることに関しては一番興味を示される為、すいとん・団子・ホットケーキ・焼肉等、共同作業ができるメニューを今後も多く取り組みたい。枝豆もぎをしてのずんだ団子になる工程や、畑に収穫に出かけた後にその食材が食卓に並んだ時の喜びを継続できるように支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○ 個々の嗜好の把握に努め、お茶好きの方には、自身で自由に飲むことができるように一つのポットにお茶を常備準備している。コーヒー好きの方には、事を成し遂げた際のご褒美として喫茶店に外出したり、豆のコーヒーを提供したりする時がある。	○ 糖尿病や予備軍の方に対して『食べたい』という欲求を、どのように対応していくか課題である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の活用により時間を見計らったトイレ誘導を行いトイレでの排泄につなげている。オムツ使用だった方が綿パンツに切り替えたり、失禁による自身喪失の予防に繋がっている。	○	今後も同様に支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前は夕食前後に全員の毎日入浴を行っていたが、状態低下により現在は一日置きの入浴となっている。本人達の希望通りにはなっていないと思われるが、外出日や入浴の時間帯で本人希望がある際には、できる範囲で対応している。(好きなテレビを観た後から・・・等)	○	『明るくて良いお風呂だね』と毎回話される利用者がおり、今後も安心、安全に入浴ができるように浴室の保全にも努めたい。時々温泉に行った気分になれるように入浴剤使用でのお風呂も準備したい。(入浴剤で気分悪くなる方には留意しながら)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人では不安で眠れないという方に対しては、側に居るからと安心できるような声がけをしながら入眠して頂くようにしている。夜眠れない時には心配ごとを傾聴したり、温かい飲み物を提供したりしている。皆の音が聞こえる場所が良いという方には、コタツで横になって休んで頂いている。	○	今後も一人ひとりの不安軽減に努め、安心して生活できるように支援していきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握した上で、得意な分野やできる力の発揮する場面づくりに努めている。(習字教室、毎食のメニュー書き、生け花、客人のおもてなし、畑仕事・・・等) 毎日の生活の中では、調理、食器洗い、洗濯干し、畳み方等を個々に役割を持ち、自分の仕事と思いや欲的に行なって頂いている。好天気の際には外出を行なう。	○	今後も個々の力を見極め、『役に立っている』という感覚を味わい、張りのある生活支援に努めたい。外出行事や他者との交流機会を設け、楽しみのある生活援助に心がけていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は2名の方がお金を所持しており、外出時に自身での買い物をして頂いている。孫の面会時に小遣いを上げたい、帰宅する時に土産を買って行きたいと訴えられる方には、預かり金の中からその都度、本人へ渡し対応している。ご家族にもその都度報告し了解を得ている。	○	本人がお金を所持するという感覚は大切に思うが、トラブルにならないように今後も留意していきたい。孫に上げたい、土産を買いたいという気持ちは自然である為、ご家族にも理解して頂きながらできる範囲で継続的な支援を行なっていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花壇や畑がある為、好天気の際には日常的に散歩を行なっている。利用者からドライブの希望が出た際や、地域での催し物がある際には、できる範囲で出かけ、楽しみある生活の提供に心がけている。その日の気分で外出が進まない方は残留とし、個々の状態に合わせている。	○	四季折々の移り行く風景を肌で感じられるように散歩やミニドライブに、今後とも取り組んでいく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望者の聴き取りを行い、芝居見物や花火見物に出かけたり、他施設に入所している妻への面会に外出援助を行なっている。外出行事の際には、外食も行い、普段味わえない食事を口にし喜んで頂いている。	○	家族同伴でのドライブ等により、本人とご家族と一緒に楽しい一時を過ごすことができるような企画を取り組んでみたい。(普段は離れ離れの生活であり、家族もスタッフが一緒に居ることにより安心して外出できる) ※家族への働きかけを通し、利用者が帰宅できるようにしたい。(本人が希望していても、帰宅が実現できない方が居る)

(事業所名 グループホームはごろも)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機の電話使用により、居室から家族や知人へ電話を掛けたり、手紙やハガキを出す支援を行なっている。家族にも利用者宛の手紙や電話を入れて欲しい旨を、その都度依頼している。	○	今後も、できる力が残っている限り電話使用や手紙を書くことの支援に努め、本人と家族が疎遠にならないような対応に心がけたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者には居室に椅子を用意し、気兼ねなく過ごして頂けるように配慮している。個々のアルバムを提示し生活の様子をお知らせしている。遠方のご家族が来所の際には、利用者と一緒に寝泊りできるよう対応している。(食事代のみ実費徴収)	○	ボランティアの定期的な訪問により馴染みの関係性が構築されているが、家族の面会は少ない状態である。今後は家族も一緒に参加できる行事等の企画により、ご家族が来所する機会を増やしていきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受けてきた者がスタッフ会議などで報告した内容を一人ひとりが認識し支援にあたっている。(本人が勉強しての知識も含む)	○	日頃スタッフ一人ひとりが認識するためにも 壁に貼る工夫をしたり、確認できる状態にしたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室入り口に鍵は設置しておらず 自由に入出入り可能 また玄関にも日中鍵はかけず安全確認のためのセンサーを設置しているのみ	○	居室は勿論玄関も自由に入出入りできる生活支援に努める。安全確認にも努める。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	移動具 補助バーなどそれぞれの障害に応じた用具を使用させていただき常に目配り気配りに努めている。一人で散歩したいという方には、スタッフは距離を置き所在確認をしながら安全に留意している。夜間など転倒防止のため足元に滑り止めを敷いている。* プライバシーの点では？掛け物に鈴をつけ安全確認をしている	○	プライバシーに影響のない便利品を使用し確かな人間の目での確認 目配り気配りの支援に努める。監視されているという感覚を与えないように、さり気ない見守りや介助を心がける。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要に応じ一人ひとりのケアに対応しながら 生活上必要な石鹸や消毒液 その他の品を設置し使用していただいている。	○	今まで生活してこられた状態を維持できるような環境を整え一人ひとりに合ったケアに努めたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	講習会や消防署の指導を受けるとともにスタッフ会議などで問題点を取り上げ一人ひとりのケアに応じた取り組みを行っている。 *職員全員が専門な指導はうけてはいない。	○	職員全員が(講習会や消防署)専門的指導を受け 自覚を持ち 一人ひとりの問題の支援に努める

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	交代で講習を受けているが十分といえない。非難訓練の際必要部分の指導を受けている。	○	きちんと指導を受け緊急時には自信を持って対応できるようにしたい。また 曖昧にならないよう確認するうえで定期的に勉強会を行う
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下で年二回の訓練を実行。その中に地域の方々にも協力依頼し了解していただき参加して頂いている。今年は岩手宮城内陸地震の被災地となり、災害時の話し合いを行い、スタッフでの学習機会にもなった。	○	今後も消防署の指導の下での訓練を実行。その中に地域の方々にも理解していただき 協力していただけるよう 参加依頼する。火災時のマニュアルは作成していたが、地震に関しては作成していない為、検討中である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	身体状況の変化はその都度報告し、今後予測されるリスク等の情報提供を行い、話し合いの場を設けている。家族の意見を頂きながら、本人の思いに添った生活支援ができるように努めている。	○	身体状況の変化はその都度報告し 知っていただき 意見をいただき 確認しながら、その人らしい思いの生活をさせていただく
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェックを行ない、状態の異変に気付いたときには速やかに主治医に連絡をとり適切な医療を受けられるようにしている。経過観察及び記録によりスタッフの情報の共有に努め、家族への報告の際にも、記録を活用している。	○	毎月の定期受診介助により主治医との連携が図られている為、今後も体調変化時の速やかな対応に心がけたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のケースファイルに綴り、更には薬保管袋にも、処方箋を貼り付け、服薬内容をスタッフが理解できるようにしている。スタッフが分包しているので内容の確認ができ、確実に内服できるように支援している。内服変更の際には日誌に記録し、情報の共有を行っている。	○	今後も同様に継続していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排泄チェックに寄り排便コントロールに留意している。水分を多目に摂取できるように取り組みポカリゼリー等での摂取量確保にも努めている。体操や散歩での身体を動かすことを促したり、食物繊維の食事の工夫やヨーグルト菌の活用により常時、ヨーグルトを生産し気軽に食べられるようにしている。	○	便秘による心身状態の影響が大きいことをスタッフ間で共通理解されており、今後も排泄チェック表の活用により排便コントロールに留意していきたい。下剤使用ではなく、できるだけ飲食物の工夫により便秘予防に努めていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを促し、要介助者には口腔ケアの介助を行い、必要に応じて舌ブラシの使用も行い口腔内の清潔保持に努めている。歯を磨く行為が出来ても不十分の方には、先に自力で歯磨きをして頂き、後から介助を行っている。(磨く仕事を忘れないように)	○	嚥下性肺炎の予防の為にも、今後も口腔内の清潔保持に努め、歯科医師とも連携を図り義歯や自歯の状態把握にも留意していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフが1週間単位で交代し献立表を作成しており、それを併設の特養の栄養士がチェックを行い個々に合わせての食事量や形態の提供を行っている。水分摂取量チェック表により一日の摂取量の把握に努め、嚥下状態の低下している方にはトロミを使用し安全に水分摂取できるようにしている。	○	今後も利用者にあった内容の食事提供に心がけ、糖尿病の方の制限食にも留意していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルにより全スタッフの周知徹底を図り感染予防に努めている。隣設している特養の医務との連携により、予防の助言や消毒薬の情報等も頂いている。感染者の衣類は個別に消毒を行ってから洗濯を行っている。	○	従来通り特養の医務との連携を図りながら、より適切な感染予防を継続的に取り組んでいきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾、スポンジ等の消毒は毎日行ない衛生管理に努め食中毒予防に留意している。特に梅雨の時期や高温期の調理や食材には気をつけている。食材の買い置きをしないよう近隣の産直から新鮮な食材を買ったり、『はごろも菜園』から収穫した物を活用している。	○	台所周りの消毒等の衛生管理を行い、今後も『はごろも菜園』での新鮮で安全な野菜を収穫し食材として活用していく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープをと取り付けている。玄関や庭にある花壇には季節の花々や野菜を植え、利用者が常に目にし季節を感じられるようにしている。野菜は利用者が自由に収穫している。玄関先のベンチでは散歩帰りや訪問者(面会の家族や隣設ホームの方、散歩で立ち寄る園児)が腰掛け、外でお茶を飲みながら語らいの時間を設けている	○	施設の顔となる玄関口には花の好きな利用者が花を生けて下さったり、庭の草取りやはき掃除をスタッフと一緒に手伝おうとされる為、今後も自分達の住いという意識を大切にしながら玄関先を整備していきたい。軒下の利用により干し柿やたくあん干しを今後も継続し、利用者と共に生活感を味わいたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳やこたつの活用により、利用者同士が洗濯畳を共同作業したり、一緒に横になりながら会話をしたり微笑ましい光景がみられている。生活空間には季節を感じられる花や利用者の方々の作品、活動の写真を掲示している。浴室は「明るくていいお風呂だね」と利用者の方もお気に入りの場となっている。	○	生活の場であることを意識し、今後も居心地良い空間づくりに努める。作業する時と食事の時のBGM(音楽)を工夫しながら耳からも心地よさを感じて頂けるように配慮する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活である為、一人になりたい時には居室で過ごしたり、トイレ前のベンチで仲間同士で会話したりできるように配置している。ソファも気の合った仲間同士が座れるように配慮している。	○	今後も利用者の相性や関係性に留意しながら個々の安らぎある場所づくりに努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の作品(書道、塗り絵)や家族来所した際に一緒に写した写真などを掲示している。以前は、位牌を持参され居室においていた方もいた。入居時には本人の馴染みの物を持参して頂くよう依頼している。	○	今後も本人の希望を確認しながら、個々の住まいである居室に工夫をこらしていきたい。妻との写真を掲示していたら妻のことが心配になる為、外して欲しいとの声があり、気持ちの変化が有りうる為、その時々本人への確認を継続し、居心地良く過ごせるように配慮していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調設備により室温は一定の温度を保持できている。掃除やリネン交換時には窓を開け、換気に留意している。居室やトイレでの便臭ある際には窓を開けると同時にファブリーズ使用により消臭を行っている。体温調整を上手くできない利用者に関しては、居室や外の気温に留意し換気や衣類調整に配慮している。	○	室温、湿度計を確認しながら、適度な生活環境づくりに心がけたい。一日一回は居室に外気を入れ、外の空気に触れることも大切にしていきたい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	円背の方の目線に合わせ、トイレの表示を2段階にしており、場所を認知しやすいようにしている。歩行器使用でも自由に自力移動できる住居環境となっている。毎月の安全点検の日に合わせて、歩行器のネジの緩みを直したり、住居環境の安全整備に留意している。	○	手すりや福祉用具の活用により、できる範囲で自立した生活が送れるように支援していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「今日は何日?」といつも問いかける利用者の居室入り口に日めくりカレンダーを用意し、毎朝、破くことを日課とし月日を認知しやすいようにしている。個々のわかる力の把握に努め、失敗による自身喪失で混乱に陥らないよう留意している。できない事はさせない、戸惑っている姿を見逃さず、さり気ない介助を行うことに努めている。	○	症状進行に伴い、今まで出来ていた事ができなくなって来る際に、スタッフの気づきやサポートにより、混乱予防に繋げ、利用者の方が安心して暮らせるように支援していきたい。
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭にあるベンチやベランダでお茶を飲んだり、焼肉パーティーを行ったりしている。季節の木々や花のある庭ではお花見や、野外芋の子会を行なっている。ベランダには洗濯物を干したり、干し柿や沢庵にする大根を干したり、利用者が安全に作業できる場として活用している。外に出たがる利用者がベランダで外の風に触れただけでも安定される。	○	建物の前後に大きな桜の木があり、お花見や園児の散歩途中の遊び場にもなっている。今後も庭やベランダを利用しての野外の活動を積極的に取り組みたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①医療との連携⇒内科、歯科診療所が併設の特養と廊下づたいとなっており、悪天候時でも安全に安心して通院できている。医師との連携も密にとれている為、体調変化時も速やかに対応できやすい環境となっており、本人、ご家族も安心されている。歯が無く、粥・刻みの食形態で入居された利用者が、歯科通院介助にて義歯作成し、普通食を摂取できるようになった。それに伴い栄養状態が良くなり、心身の状態も良くなっている。
- ②自然に恵まれた生活環境⇒建物周辺には桜の木や花壇、畑を設けてあり、散歩コースで四季を感じられる。『はごろも菜園』での収穫の楽しみも味わえる。去年は地域の方に頂いた柿や大根で、利用者の方々が干し柿、沢庵の漬物作りに励まれ、生き活きた表情が見受けられた。
- ③併設の特養との協力体制ができており、大きな行事等への参加や特養看護師や栄養士との連携も図られている。
- ④スタッフの出勤、退勤時には、利用者一人ひとりの名前を呼び挨拶をするようにしている。(自分の名前を呼ばれないで一日を過ごすことの無いように)
- ⑤散歩できない日には、テレビ体操やテープ使用での体操を行い、毎日身体を動かすようにしている。